

環境負荷低減の取組の「見える化」の推進

生産者への積極的なアプローチによる温室効果ガス削減への貢献度を★の数で表す「みえるらべる」の普及

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

当拠点では、環境に配慮した取組を実践している生産者に「みえるらべる」を周知していたが、登録が進んでいない状況にあった。JAからは事務的な負担（栽培基準、記録の確認、表示の方法等）の増加に対して、価格などの面から取組のメリットがあまり感じられないとの反応が多かった。

○ 取組の内容

地域で農産物を個人販売している生産者への「みえるらべる」の普及を推進するため、本制度について丁寧に説明し、登録に係る負担感を払拭した。また、上川農業改良普及センターと連携し、当拠点は「みえるらべる」の店内掲示ポップの作成を支援し、同センターは温室効果ガス削減量の算定や登録手続きを支援した。

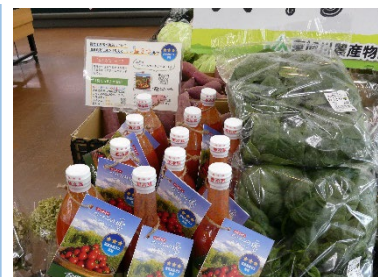
加えて、りんごの登録が全国的に少ないことに着目し、旭川市果樹協会主催の研修会で「みえるらべる」登録のメリットを説明するとともに、関心を持った生産者には、後日、仮算定を行い、登録に向けて支援した。

さらに、コープさっぽろの直売コーナーに出荷する生産者が集まる旭川地区ご近所やさい交流会において、「みえるらべる」の登録を働きかけた。

○ 効果・成果、今後の方向性

同センターと連携した働きかけにより、当拠点管内では4件が算定シートの利用登録をした。また、みえるらべるを取得した1件については、販売用のポップ作成を拠点が支援した。生産者からは「手続きが思ったよりも簡単」、「温室効果ガスの排出状況が可視化されて参考になる」という声が聞かれるなど、環境負荷低減の取組に対する前向きな反応が見られた。

今後も生産段階での「みえるらべる」の伴走支援に取り組みながら、消費者や食品関連事業者への周知を図り、同戦略の目標達成につなげる。



写真（図）「みえるらべる」を取得したミニトマトを原料としたトマトジュース。旭川市内の青果店 amuse market ほか4店舗で通年販売が開始され、店内掲示ポップ作成は拠点が協力をした。



写真（図）コープさっぽろご近所やさい生産者交流会でみえるらべるを説明。普及センターも参加し、交流会で、ともに生産者にアプローチ。

